

DI 調査結果（令和5年4月-6月期）

一般社団法人石川県鉄工機電協会

概況総括：『景況感は引き続き下振れ傾向にあり、世界情勢の動きに注意する必要があるが
来期については全項目が好転しており、今後の持ち直しが期待される』

【調査概要】

1. 今期(令和5年4月-6月期)の業況調査 DI12 項目では、「受注単価販売価格」など5項目がプラス、「売上高」など7項目がマイナスとなったが、8項目が改善している。
2. 現在の経営状況を示す「売上高」から「生産設備」までの9項目では、
 - (1) 景況感を端的に表す「売上高」は、▲6.5(前回1.9)と引き続き減少しマイナスに転じた。また高騰が続く「原材料価格」が▲53.1(前回▲65.3)と落ち着きを見せつつあるが依然として上昇が続いている。「収益状況」も▲19.4(前回▲25.4)と改善しているものの、価格転嫁が出来ていない状況が窺える。
 - (2) 現場の繁忙さを表す指標では、「操業率」▲1.8(前回10.2)と8期ぶりにマイナスに転じ、「受注残」9.5(前回14.4)、「生産設備」4.9(前回12.2)と、いずれも減少となっており、景況の一服感がみられる。
3. 来期については、「来期受注」1.4(前回▲6.3)とプラスになり、「来期採算」▲6.5(前回▲18.7)「来期資金繰」▲2.5(前回▲9.4)と改善しており、上昇が期待される。
4. 「企業経営上の悩み」については、新型コロナウイルス感染症の5類移行により社会経済活動が回復したことで「人材不足」が34.5(前回31.5)と引き続きトップとなっており、更なる自動化や省人化の取組みが急がれる。また、「受注不安定」が28.4(前回20.6)と、受注の不安感が強くなってきている。
5. 景況感は引き続き下振れ傾向にあり、依然として原材料やエネルギー関連価格の高騰で収益状況が逼迫している。加えて、長引くロシア・ウクライナ問題や中国経済の動向に注意する必要があるが、今後の景況が持ち直していくことが期待される。

